令和3年度活動報告書

会　員　名	上越市			
活　動　名	北前船フォーラム			
主　催　者	上越市教育委員会			
報　告　者	所属	上越市教育委員会文化行政課	TEL	025-545-9269
	氏名	小林優樹	E-mai	bunkagyousei@city.joetsu.lg.jp
協議会以外の共催・後援等				
実 施 時 期	令和3年7月10日（土）			
実 施 規 模	来場者数：91人			
実施事業費	375,000円			
実 施 概 要	活 動 全 般			
	【事業概要】 上越市は平成30年に日本遺産「荒波を越えた男たちが紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に追加認定を受け、様々な周知を 行ってきたが、北前船や古くから港まちであるという地域の歴史について、更に広く知っていただく為に、北前船について歴史文化の観点から理解を深め、地域資源としての魅力や活用の可能性を探るフォーラムを「新しい生活様式」を踏まえ開催 【具体的な取組】 ・講演　高野宏康氏　小樽商科大学グローカル戦略推進センター学術研究員 ・地元活動団体の活動報告　まちおこし直江津　代表　佐藤和夫氏 ・北前船が伝えた民俗芸能　夷浜米大舟保存会舟踊会、直江津民謡保存波路会 国立大学法人小樽商科大学グローカル戦略推進センター学術研究員の高野宏康氏をお迎えし、「北前船の歴史的意義と魅力～北前船遺産を活かした地域振興の可能性～」をテーマに、北前船の歴史やご自身の活用事例などについて講演いただいた。また、地域で北前船を活用されている団体、まちおこし直江津の代表佐藤和夫氏から、団体の活動や地域の北前船の関わりについて報告いただいた。さらに、北前船の船乗りによって伝えられた民俗芸能である「米大舟（べいだいしゅう）」と「直江津舟方節（ふなかたぶし）」について謂れを紹介するとともに、それぞれ夷浜米大舟保存会舟踊会と直江津民謡保存波路会から披露いただいた。			
	他の会員の参考となる新しい試みやコロナ対策等			
	各種業種別ガイドライン等を踏まえ下記の感染症対策を実施 ・マスク常時着用の呼びかけ ・受付でのソーシャルディスタンスの確保 ・受付での検温の実施 ・手指の消毒の呼びかけ ・受付に飛沫防止のパーテーション ・会場内座席の一つ飛ばしでの利用舞台から2列座席間引き ・接触箇所を減らすため扉の開放 ・関係者の開始日2週間前からの健康観察を実施 ・チラシ、ホームページ、会場にて接触確認アプリ「cocoa」「新潟県新型コロナお知らせシステム」の利用の呼びかけ ・2週間以内に、発熱症状や、患者との接触歴、渡航歴のある方の来場自粛の呼びかけ			
実施にあたり苦労した点（今後他の会員が実施する上で注意する点）	・感染症対策として実施した座席の間引きのための表示掲示や、資料をあらかじめ設置するなどの会場内の設営にそれなりに時間を要した。 ・感染対策として会場の扉を開放した状態（換気、不特定多数の接触を避けるため）で実施したが、他の利用者の声や音が会場内に聞こえてきてしまった。 ・受付を3人態勢（一人誘導、二人受付）で行い、おおむねスムーズに対応できたが、時折、列が詰まってしまい、誘導係は検温を行っていたため、声掛けや列整理の対応が出来ない場面があった。（表示などで案内するべきであった。）			
参加者の反響（参加者の声）	・郷土の貴重な財産がいろいろなところにあることが分かった。今度自分の目で確かめたいと思った。 ・知らないことが多く、当たり前だと思っていたことが北前船に関係があるものだったと知ることが出来た。機会があったら案内したい。			
活動に対するPR内容	・HP掲載、チラシ、ポスターの掲出、市公式SNSで開催の周知を行った。 ・チラシの配布をとおして商工会議所、観光協会等にも周知を依頼したほか、小中学校へも案内を送付した。			
マスコミ等の反響	・開催の周知や開催結果について地元新聞社に取り上げられた。			
実施状況写真	別紙のとおり			

北前船

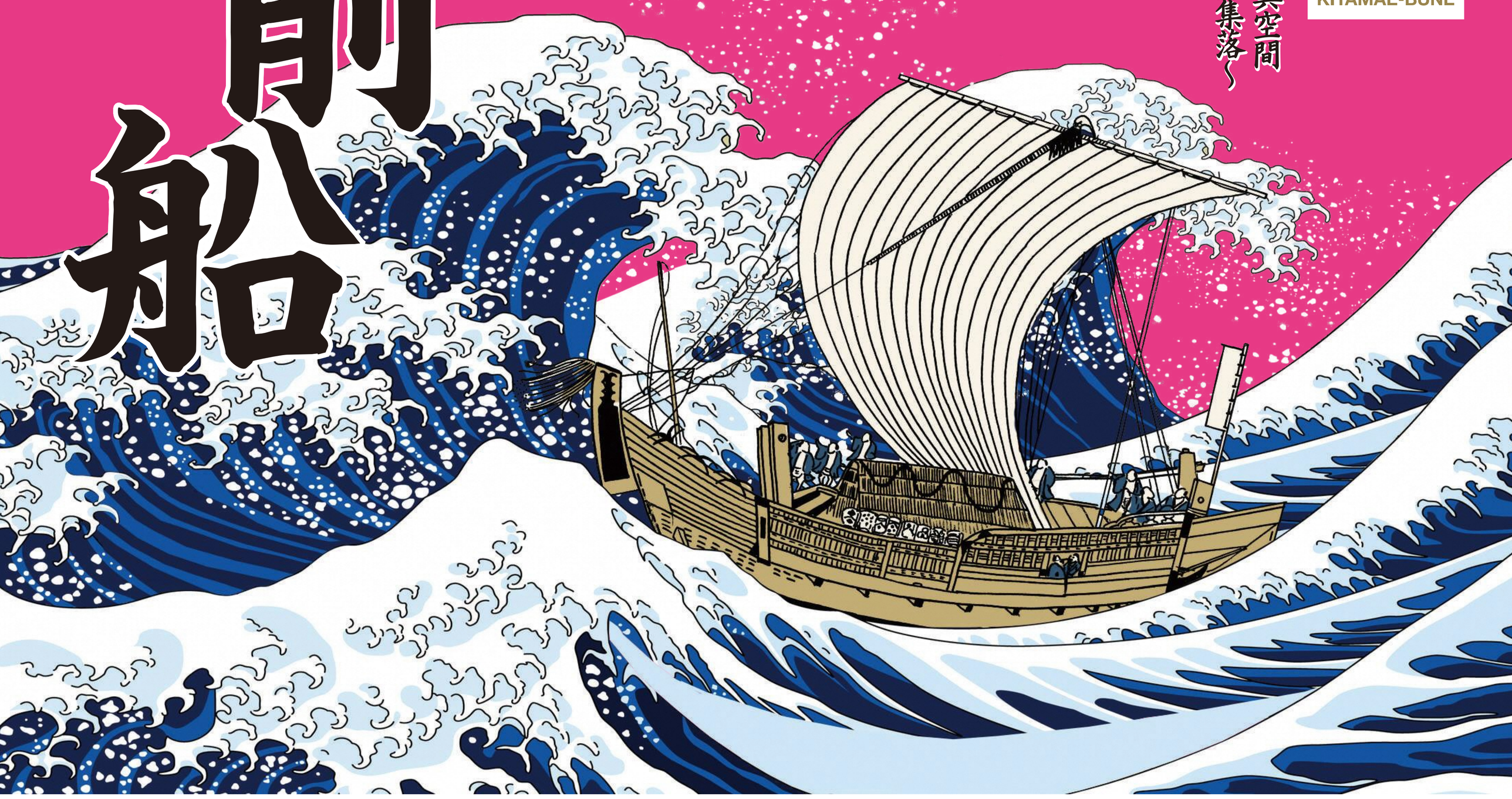
荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間
～北前船寄港地・船主集落～

JAPAN HERITAGE
日本遺産

KITAMAE-BUNE

江戸時代から明治時代にかけて日本海で活躍した北前船。米などの物資や寄港地で仕入れた多種多様な商品を運んだことから「動く総合商社」とも言われています。大阪から瀬戸内海を通り、北海道までを結ぶ西回り航路で、商売をしながら航海した北前船は、当時の物流、経済を支え、物だけでなく文化も運びました。ここ上越市にもそんな北前船が数多く寄港し、様々なものをこの地にもたらしました。

このフォーラムでは、そんな北前船の魅力を歴史文化の観点から理解を深め、地域資源としての魅力や活用の可能性を皆さんと一緒に探っていきます。



北前船フォーラム

令和３年
2021 7/10（土） リージョンプラザ上越 コンサートホール

開 会 14：00 （開場 13：15） 定員 100 名（要事前申込み）

14：05～
講演
高 野 宏 康 氏
小樽商科大学グローカル戦略推進センター学術研究員

15：10～
地元活動団体の活動報告
まちおこし直江津
代表 佐藤 和夫 氏

15：45～
北前船が伝えた民俗芸能
米大舟（べいだいしゅう）
夷浜米大舟保存会 舟踊会

直江津舟方節（ふなかたぶし）
直江津民謡保存波路会

各種業種別ガイドライン に基づいた新型コロナウイルス感染拡大防止策を実施します。

このような感染対策を実施します。
マスクの着用 受付シールド 座席の間引き

ご来場の方へのお願い 下記にご協力ください。
マスクの着用 検温 手指の消毒 ソーシャルディスタンス 2m

申込問 上越市 教育委員会 文化行政課
TEL:025-545-9269 FAX:025-545-9272
E-mail:bunkagyousei@city.joetsu.lg.jp

― 出演者のご紹介 ―

【講師】
高野　宏康　氏

国立大学法人　小樽商科大学
グローカル戦略推進センター
学術研究員。博士（歴史民俗学資料学）

1974 年、「北前船の里」として知られる石川県加賀市橋立町に生まれる。曾祖父以前は北前船の船乗り。明治大学文学部卒業。神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科博士後期課程修了。研究分野は北前船学、地域資源論、近現代史。

全国各地の北前船遺産の調査研究と活用による地域活性化事業に取り組む。北前船を切り口として、歴史研究と観光・地域振興をつなぐ活動を展開中。

【主な活動】
・小樽市北前船日本遺産を活用した with コロナ期対応型イベント実行委員会事業推進ディレクター（観光庁誘客多角化事業）
・北前船子ども洋上セミナー小樽実行委員会事務局長
・NPO法人歴史文化研究所代表理事
・小樽市日本遺産推進協議会ストーリー検討 WG 委員
・小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり景観審議会委員
・北海道遺産（第３次）審査委員
・小樽市観光基本計画（第２次）アドバイザー
・おたる案内人マイスター（観光ガイド）
・小樽梁川商店街活性化委員会委員（商店街振興）

【地元活動団体の報告】
まちおこし直江津　代表　佐藤　和夫　氏

平成 24 年結成
文化的な側面から直江津の活性化を図るため、各種講演会や事業の企画を行う。
これまで、北前船や地域の歴史をわかりやすくまとめた子ども向けの冊子「なおえつものがたり」の作成や北前船に関するまち歩きの案内などを務める。
上越市「地域の宝」認定団体

【北前船が伝えた民俗芸能】
米大舟、直江津舟方節はともに北前船の船乗りたちによって伝えられたといわれています。

夷浜米大舟保存会 舟踊会
歌い踊り続けられてきた米大舟存続の危機に陥り、これを何とか存続させていくために昭和 13 年 4 月に町内全戸を会員とする夷浜米大舟保存会を設立。現在運営は舟踊会が担っている。
上越市「地域の宝」認定団体

直江津民謡保存波路会
大正 11 年に「直江津波路會」が設立。「越後追分」や「頸城松坂」、「直江津甚句」などの保存、普及に努める。平成 2、5、9 年の日本郷土民謡協会の全国大会に「直江津舟方節」で出場し、それぞれ 8、7、6 位を獲得。
上越市「地域の宝」認定団体

開催日を含めた 2 週間以内に以下の症状に該当する方の参加はご遠慮ください。
○37.5 度以上の発熱、咳など風邪の症状がある人
○新型コロナウィルスの感染患者やその疑いがある人との接触歴がある人
○法務省・厚生労働省が定める諸外国への渡航歴がある人（およびそれらの人と家庭や職場内等で接触歴がある人）

また、ご来場の際は新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力ください。
○受付の際は人と人との距離を空け、ソーシャルディスタンスを守っていただくようお願いします。
○会場内に設置されているアルコール消毒液による手指の消毒にご協力ください。
○検温にご協力ください。
○マスクの常時着用にご協力ください。また、大声での会話はお控えください。

※厚生労働省新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」のインストール、新潟県新型コロナお知らせシステムへの登録をお願いします。

参加をご希望される場合は、電話、メール、FAX 等で下記申込先にお申し込みください。

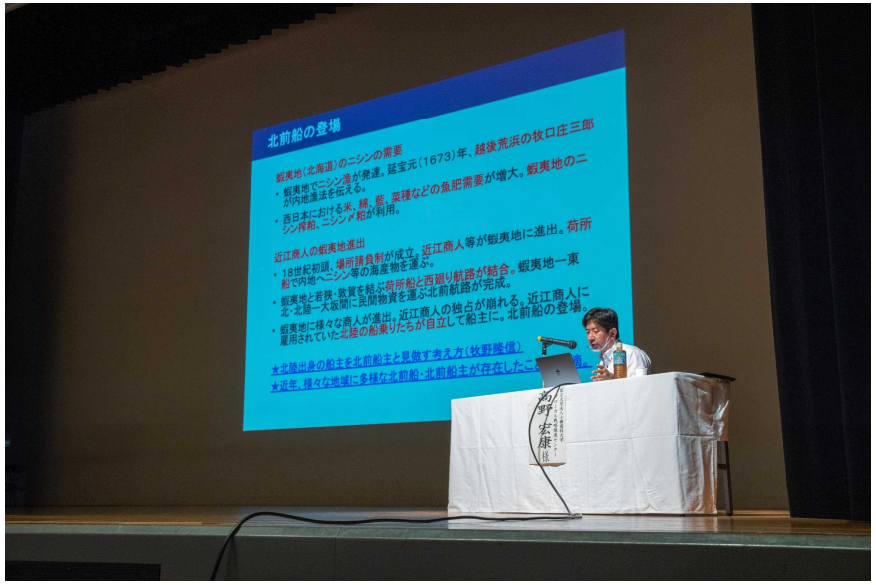
申込期限：令和３年７月７日（水）まで

・頂いた個人情報は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として参加者を把握するために収集し、万が一フォーラム参加者において感染者等が確認された場合、保健所等へ情報提供を行うことのみに使用します。
・申込が 100 名を超えた場合は抽選とさせていただき、**落選された場合のみご連絡いたします。** 連絡がない場合は当日会場へお越しください。
・今後の新型コロナウイルス感染症の状況によっては、内容の変更や開催を中止させていただく場合があります。最新の情報については、市ホームページをご確認くださるようお願いします。

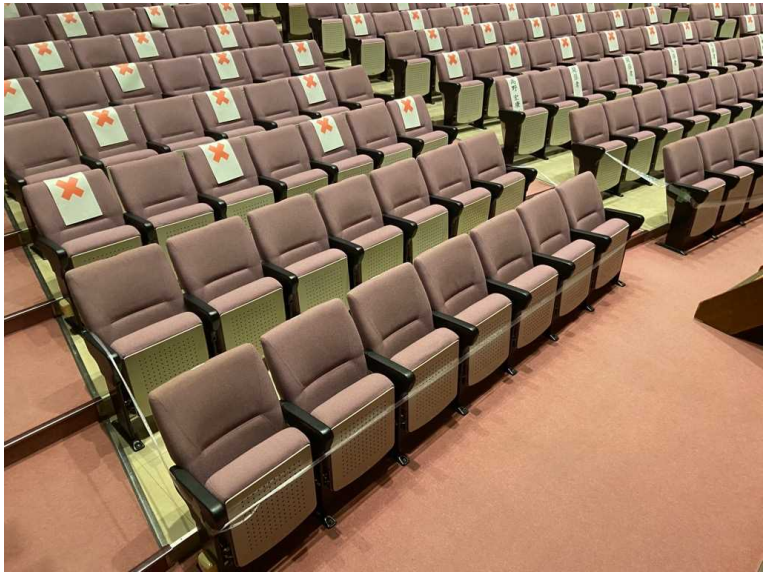
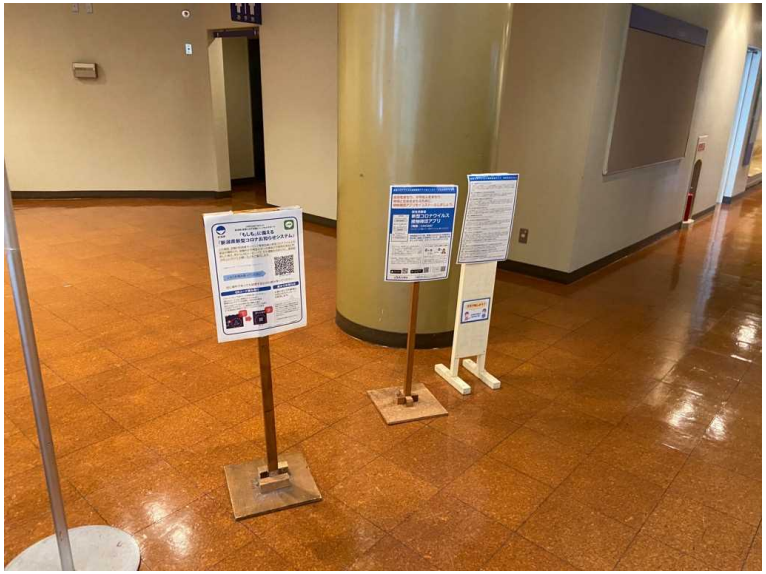
お名前	団体・所属	ご住所	連絡先
（ふりがな）			

※FAX の場合は上記欄を記入し、送信してください。電話、メールの場合は上記内容が分かるようにお申込みください。
【申込先】　上越市　教育委員会　文化行政課　ＴＥＬ：025-545-9269　ＦＡＸ：025-545-9272
E-mail：bunkagyousei@city.joetsu.lg.jp

〇フォーラムの様子


北前船の登場
蝦夷地(北海道)のニシンの需要
・蝦夷地でニシン漁が発達。延宝元(1673)年、越後荒浜の牧口庄三郎が内地漁法を伝える。
・西日本における米、綿、藍、菜種などの魚肥需要が増大。蝦夷地のニシン搾粕、ニシン〆粕が利用。
近江商人の蝦夷地進出
・18世紀初頭、場所請負制が成立。近江商人等が蝦夷地に進出。荷所船で内地へニシン等の海産物を運ぶ。
・蝦夷地と若狭・敦賀を結ぶ荷所船と西廻り航路が結合。蝦夷地ー東北・北陸ー大坂間に長間物資を運ぶ北前航路が完成。
・蝦夷地に様々な商人が進出。近江商人の独占が崩れる。近江商人に雇用されていた北陸の船乗りたちが自立して船主に。北前船の登場。
★北陸出身の船主を北前船主と見做す考え方(牧野隆信)
★近年、様々な地域に多様な北前船・北前船主が存在した
牧野宏康様

今日のお昼
北前船 べんとう
佐藤 和夫 様

米大舟
麦芽 舟踊会

○コロナ対策